



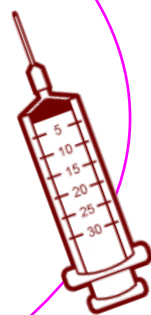
健康に関心のある方に おすすめする 新検診システム

血液検査で

健康管理をしてみませんか！



日頃から気になる
ちょっと気になる
簡単にチェック



大田市立病院 医事室

(直通) 0854-84-7571

(代表) 0854-82-0330

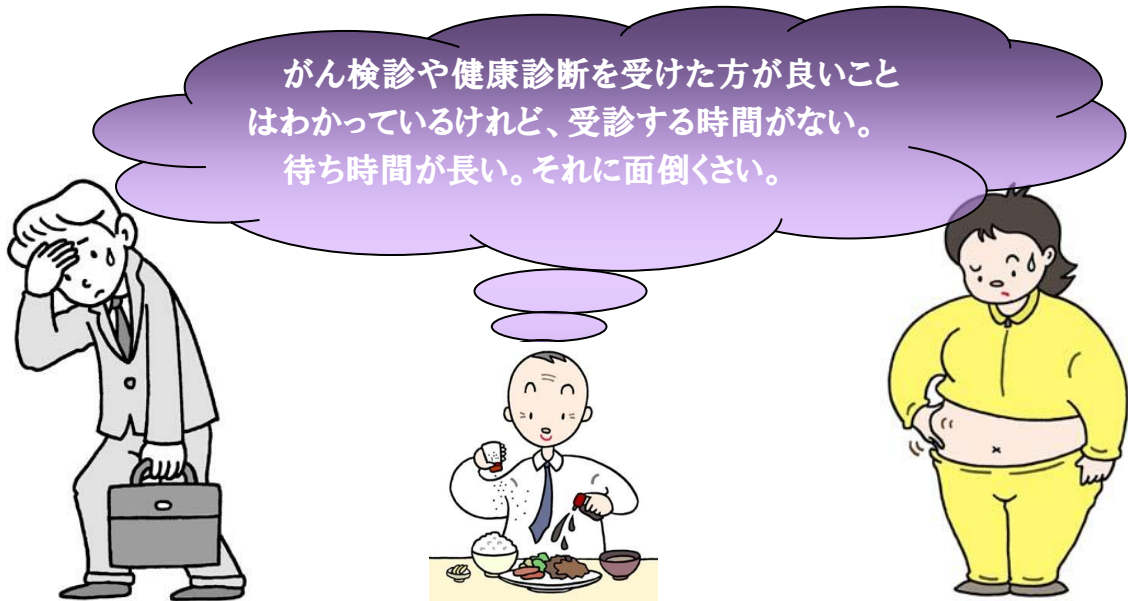


大田市立病院では、皆さんの健康管理に役立てていただくため、血液で調べる検診を始めました。

血液中のアミノ酸でがんのリスクを予測するアミノインデックスがんリスクスクリーニング検査、胃の健康度を評価して胃がんのリスクを判定するABC検診など、がんリスクチェック3コース。

お酒や脂っこい食事好きの方、メタボが気になる方などへお勧めする健康チェック8コースをご用意いたしました。

※リスクとは、可能性、危険性を意味します。



こんな方にお勧めする血液検診検査

★★★ 血液検診の最大特徴 ★★★

血液検診は、採血のみで医師の診察はありませんので待ち時間はほとんどなく、病院内での所要時間はおおむね15分程度となります。

(ただし、アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査は、採血後30分ほどお待ちいただく必要があります)



- ☆予 約 必要となります(電話予約、窓口予約)
- ☆実 施 日 水曜日～金曜日 午前10時～午後1時
- ☆概 要 窓口(受付と会計)→検査室(採血して帰宅)
*がんリスクチェックコース・・・3コース
*健康チェックコース・・・・・・・8コース
- ☆結 果 郵送します(2週間以内)

☆☆☆ 検 診 メ ニ ュ ー ☆☆☆

*がんリスクチェックコース

1. アミノインデックスがんリスクスクリーニング(AICS)検査

・早期がん発症確率予測の検査

1-1	男性	4種〔胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん〕	18,900 円
1-2	女性	5種〔胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮・卵巣がん〕	18,900 円
1-3	女性	2種〔乳がん、子宮(頸がん・体がん)・卵巣がん〕	9,660 円

2. ABC検診

・胃がんのリスクを判定する検査

〔血清ペプシノゲン、血清Hピロリ菌抗体〕

3,360 円

3. 腫瘍(しゅよう)マーカーセット

・がん細胞の目印(マーカー)になる物質を測定する検査

3-1 男性 [AFP、CEA、CA19-9、PSA]

3-2 女性 [AFP、CEA、CA19-9、CA125]

6,825 円

6,825 円



*健康チェックコース

A. 肝臓コース

・アルコール好き、白眼が黄色い、飲み過ぎが気になる方

〔GOT、GPT、γ GTP、総ビリルビン〕

1,155 円

B. 糖尿病コース

・家族に糖尿病がいる、のどが良く乾く、血糖値が気になる方

〔空腹時血糖、ヘモグロビンA1c〕

1,155 円

C. 脂肪コース

・脂っこい食事が好き、お酒を良く飲む、肥満気味が気になる方

〔総コレステロール、中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール〕

1,260 円

D. 腎臓コース

・背中に痛みがある、むくみ、痛風が気になる方

〔尿素窒素、クレアチニン、尿酸、総蛋白〕

945 円

E. 貧血コース

・立ちくらみ、疲れやすい、動悸などが気になる方

〔白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット値、血小板数〕

630 円

F. メタボリックシンドロームコース

・AからEまでの全検査。お得なコース

3,255 円

G. 血液型コース

・血液型を知りたい方

945 円

H. 肝炎ウイルス検査コース

・以前輸血をされた方、ご家族に陽性の方がおられ気になる方

〔HBs抗原、HCV抗体〕

2,625 円

■ 検診検査は保険適応外ですので自費診療(消費税が含まれています)となります。

■ 検診検査はあくまでも自己管理のための検診であり健康診断ではありません。

◆ がんリスクチェックコースの説明

がんに負けない生活を送るためには、早期発見・早期治療が重要であり、がんの早期発見のためには、『自覚症状がなくても検診を受ける。』ということが、最も重要なポイントになります。

おすすめ
します。



アミノインデックスがんリスクスクリーニング(AICS)検査

☆アミノインデックスとは？

アミノインデックスとは、血液中に含まれる約40種類のアミノ酸濃度を分析・解析することで健康状態や病気の可能性がわかる検査です。健康な人のアミノ酸濃度は一定に保たれるように調節されていますが、さまざまな病気になると、アミノ酸のバランスが変化をすることがわかっています。

☆AICS検査の特徴は？

特徴は、早期がんの発見が期待されることと、少量の採血(5cc程度)だけで、複数のがんを同時に検査できることです。一般的ながん検査では、がんの種類によって検査方法が異なるため、受診者の負担が大きくなっています。しかし、この検査なら1回の採血で、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん(男性)、乳がん(女性)、子宮・卵巣がん(女性)のリスク(可能性・危険性)予測を同時に行うことができます。

☆検査前の注意点は？

検査前8時間以内の食事は控えて下さい。また、アミノ酸のサプリメント、アミノ酸含有スポーツドリンク、アミノ酸製剤、牛乳・ジュースなども食事同様に控えて下さい。(水は飲めます)

☆検査対象年齢は？

前立腺がん(40歳～90歳)、子宮・卵巣がん(20歳～80歳)、それ以外(25歳～90歳)。なお、妊娠されている場合、肝臓又は腎臓疾患で医療機関に受診中の方は、検査データ信用度は低いため、検査はお勧めできません。

ABC検診(胃がんリスク判定検診)

☆ABC検診とは？

胃がんの大きな要因である、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染の有無と胃粘膜の萎縮から、胃がんのリスクを判定し、「胃の健康度」として4群に分類します。そして、胃の健康度に応じた検診間隔を設定することができます。

☆胃の健康度と検診間隔は？

A: 健康的な胃粘膜。次回検診は5年後に！

B: 少し弱った胃粘膜。内視鏡検査へ、問題なければ次回は2～3年後！

C: 弱った胃粘膜。内視鏡検査へ、問題なければ次回は1年後！

D: かなり弱った胃粘膜。毎年、人間ドック(内視鏡検査)を受診しましょう！

☆対象者は？

無症状の方が対象となります。(ピロリ菌除菌後、胃切除後、潰瘍等治療中の方などは対象外です)

胃の健康度 分類		ヘリコバクター・ ピロリ抗体価	
		陰性	陽性
ヘプシ /ゲン	陰性	A	B
	陽性	D	C

腫瘍(しゅよう)マーカーセット

☆腫瘍マーカーとは？

身体の中にがん細胞が増殖してきた時に、そのがん細胞が作り出し、血液や尿中に出現してくる物質を検査測定することで、がんの診断や治療の目印(マーカー)として役立てることができます。

☆注意点は？

前立腺がん(PSA検査)以外のほとんどのがんで、ある程度進行した状態にならないと腫瘍マーカーには現れません。また、喫煙や妊娠、がん以外の疾病など他の要因でもマーカー値が高くなる場合がありますので、本検査だけでがんの存在の有無を証明することはできません。

注意)がんリスクチェックコースの検査はリスクの予測ですので、検査の結果から必ずがんであるとか、がんではないとか断定できるものではありませんのでご注意ください。

検査項目とその目的

がんリスクチェックコース



アミノインデックスがんリスクスクリーニング (AICS) 検査

この検査は、早期がんの発見につながる新しい検査で、がん罹患している確率を算出し、AICS値として数値化するものです。
0.0～10.0の間の値で表し、数値が高いほど、がんである確率が高いといえます。

検査項目	対象がん種別		
男性 4種検査	胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん		
女性 5種検査	胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮（頸がん、体がん）・卵巣がん		
女性 2種検査	乳がん、子宮（頸がん、体がん）・卵巣がん		
検査結果区分	結果範囲	有病率	ランク別有病者数※
ランク A	0.0～4.9	0.03～0.07%	8,000人に2.5～5.3人
ランク B	5.0～7.9	0.13～0.21%	1,500人に1.9～3.2人
ランク C	8.0～10.0	0.40～1.02%	500人に2.0～5.1人

※がんの一般的な有病率を0.1%(1万人に10人)とした場合

AICS値は、血液中のアミノ酸濃度バランスを調べることによって、がん罹患しているリスク(可能性・危険性)を予測する検査で、がんの有無を直接調べる検査ではありません。
従って、検査結果区分が「ランクA」でも、『がんではない』とは言いきれません。また、「ランクB」や「ランクC」でも、『がんである』ということではありません。

ABC検診（胃がんリスク判定検診）

この検査は、胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないかを調べる抗体価検査と、胃粘膜の老化（萎縮性変化）の状態を客観的に調べるペプシノゲン法検査を組み合わせて、胃の健康度を4段階で評価します。

腫瘍（しゅよう）マーカーセット

この検査は、がん（腫瘍）細胞が作り出す「がん関連物質」の測定を行うことで、がんのスクリーニングや診断に用いることができます。しかし、マーカー値が高いとただただで、がんとは確定できません。画像診断や細胞診断、身体所見など、より総合的に判断することが必要です。

検査項目	内 容
A F P	原発性肝がん・肝硬変・胃潰瘍などで高い値になります。また、妊娠などでも高い値になります。
C E A	悪性腫瘍のスクリーニング、経過観察の判定に測定されます。喫煙者や、糖尿病の方でも上昇することがあります。
C A 1 9 - 9	消化器系のがん、特に膵がん・胆のうがん・胆管がんなどの診断・治療経過観察・再発の判定に測定されます。
P S A (男性のみ)	前立腺がんなどで高い値になります。また、前立腺肥大症・前立腺炎でも上昇します。
C A - 1 2 5 (女性のみ)	卵巣がんなどで高い値になります。また、卵巣のう胞・子宮内膜症・肝硬変・急性膵炎・月経・妊娠などでも高くなる場合があります。月経のある方は、月経開始後5～10日目の検査が理想的です。

注意）血液検査だけではがんの診断、部位の特定はできません。がんリスクの指標の一つとして利用して下さい。

検査項目とその目的

健康チェックコース



コース名	項目	検査目的
A 肝臓コース	GOT (AST)	肝臓・筋肉に多く存在する酵素。ウイルス性肝炎、脂肪肝、アルコール性肝炎、心筋梗塞などで上昇します。
	GPT (ALT)	肝臓に多い酵素。ウイルス性肝炎やその他の肝障害などで上昇します。
	r-GTP ガンマーGTP	肝機能検査の一つで、アルコール性肝障害や胆石症・胆のう炎などで上昇がみられます。
	T-Bil 総ビリルビン	黄疸の指標。肝障害、胆のう炎などで上昇します。
B 糖尿病コース	GLU 血糖	血中ブドウ糖濃度のことで、糖尿病の診断や経過観察、あるいは低血糖を知ることができます。
	HbA1c ヘモグロビンA1c	ヘモグロビンにブドウ糖が結合したもので、過去一ヶ月程度の血糖の状態を反映し、糖尿病の指標とされます。
C 脂肪コース	T-CHO 総コレステロール	肝機能の指標の一つで、高値では動脈硬化などの原因になります。
	TG 中性脂肪	脂肪・糖質・アルコールなどのカロリーの摂りすぎ、糖尿病、肥満などで高い値になります。
	HDL-CHO HDLコレステロール	動脈硬化を防ぐ効果があり、「善玉コレステロール」と呼ばれます。低値は動脈硬化などの危険因子の一つです。
	LDL-CHO LDLコレステロール	動脈硬化を促進するはたらきをすることから、「悪玉コレステロール」と呼ばれ、高値はコレステロールなどの摂りすぎが考えられます。
D 腎臓コース	TP 総タンパク	栄養不良や重い肝臓病などで低下します。
	BUN 尿素窒素	増加は腎機能低下を反映し、腎機能の指標として用いられます。
	CRE クレアチニン	腎臓の排泄能力を表します。高値だと、腎機能障害や腎不全などが疑われます。
	UA 尿酸	高値で関節痛を伴う場合、痛風と診断されます。
E 貧血コース	WBC 白血球数	感染症や外傷、喫煙やストレス、まれに白血病などで増加します。
	RBC 赤血球数	多い場合を多血症、少ない場合を貧血と呼びます。
	Hb ヘモグロビン	多い場合を多血症、少ない場合を貧血と呼びます。血液中の酸素を肺から全身に運搬する役割を担っている血色素です。
	Ht ヘマトクリット値	高い場合に多血症が疑われ、低い場合には貧血が疑われます。血液中に占める赤血球容積の割合をあらわしたものです。
	PLT 血小板数	主に出血を止める働きをします。運動後や感染症で高くなり、減少すると出血しやすくなります。
F メタボリックシンドロームコース		Aコース～Eコースをセットにしたお得なコース。
G 血液型コース	ABO式	赤血球の血球膜上にある抗原の種類(型)を決定する検査です。
	Rh式	赤血球の血球膜上にあるD抗原の有無を調べ、輸血時のトラブルを回避します。
H 肝炎ウイルスコース	HBs抗原	B型肝炎の診断に使用されます。
	HCV抗体	C型肝炎の診断に使用されます。

リスクが高い方は、なるべく早めに、またそうでない方も、人間ドックや各種検診を毎年受けましょう。